

2011 パラグライディング日本選手権規定

1. 日本選手権の開催

日本選手権を開催しようとするものは、原則として日本選手権開催予定年の前々年の12月までに必要書類（開催要項および地図）を揃えて、その旨をJHFに提出しなければならない。その内容の検討はJHFパラグライダー競技委員会で行い、開催の決定は開催予定年の前年の3月までの理事会において行うものとする。

2. 参加資格

日本選手権の参加資格は以下の4項目全てを満たすものとする。

- a) 日本国籍を有するもの（オープン参加の外国人は除く）。
- b) 有効なJHFフライヤー登録をしているもの。
- c) 次のいずれかに該当するもの。
 - ・シード選手
 - ・正会員代表
 - ・学生枠
 - ・開催地元枠
 - ・女子優先枠
 - ・前年度Jリーグランキング上位者
 - ・今年度Jリーグ登録者

オープン参加の外国人は日本国内で有効な第三者賠償責任保険に加入（保険金額はJHFフライヤー登録と同額以上とする）しており、なおかつ適切なフライト技術を身につけているものに限る。

3. 使用機体

使用機体は次の規則どちらかを満たすものとする。

- a) 改造機及びプロト機は、JHSCプロト登録されているか、有効なFAI S7Bによるか、あるいはPWCルールによる証明書が必要。
- b) 製品タイプ(JHSC, JHTC, EN, DHV, LTF, SHV, FFVL, AFNOR, ACPUL に登録されているもの)は、無改造であることの宣誓書が必要。

4. 大会の種類

大会はジャパンリーグ対象大会とする。主催者はFAI カテゴリー2大会とすることが望ましい。ゼッケンは日本選手権独自のものが採用される場合がある。

5. シード選手 ※ただし、2011年度は2010年度ルールに準ず

シード選手は前年度日本選手権10位までおよび前年度PJLランキング10位までのもの（重複があっても繰り下げはしない）とする。

6. 参加選手選抜方法 ※ただし、2011年度は2010年度ルールに準ず

総予定エントリー人数からシード選手（前5項による）、正会員の資格を持った各都道府県1名、学生連盟枠3名、開催地元枠（正会員の資格を持った都道府県の場合に限り最大2名。ただし少なくとも1名は女子選手とする）および女子優先枠（総予定エントリー人数の10%。ただしシード選手もこの枠に含めるものとし、日本選手権開催前年度のPJLランキング上位から選出する）を差し引いた人数を日本選手権開催前年度のPJLランキング上位から選出する。それでもエントリー枠に空きがある場合は、当年度Jリーグ登録者に解放する（選抜方法は主催者に任せる）。

7. 大会の準備

プレ大会とも言うべき日本選手権と同規模の大会を予め開催し、経験を積んでおくこと。

8. 陪審員

大会開始前に2名以上の公式審判員からなる陪審員を設置すること。陪審員は抗議があった場合はこれを審議し、認否の決定を下す。この陪審員に関わる費用はJHFが負担するものとする。

9. 書類の提出

申請に必要な書類は、日本選手権開催の三ヶ月前まで、あるいは大会がカテゴリー2の場合は、FAIカテゴリー2大会規定に定められた期日までにJHFパラグライダー競技委員会へ提出すること。

10. 補欠募集 ※ただし、2011年度は2010年度ルールに準ず

主催者は予定エントリー人数に達するまで補欠募集をすることができる。その方法は前年度PJLランキング上位者からとする。

11. 成立条件

日本選手権が成立するためには、開催日程最終日（予備日を含む）まで競技を行った上で、大会で成立したタスクのデイクオリティを合計した値が1.2以上、かつ成立したタスクのどれか1本のデイクオリティが0.6以上となる必要がある。

12. 女子表彰

実際の女子参加人数が5名以上なおかつ参加選手総数の10%以上であった場合、女子の1位を女子日本選手権者とする。